

(単純集計版)

在宅介護実態調査の集計結果

～第10期介護保険事業計画の策定に向けて～

令和8年5月

＜伊勢崎市＞

目次

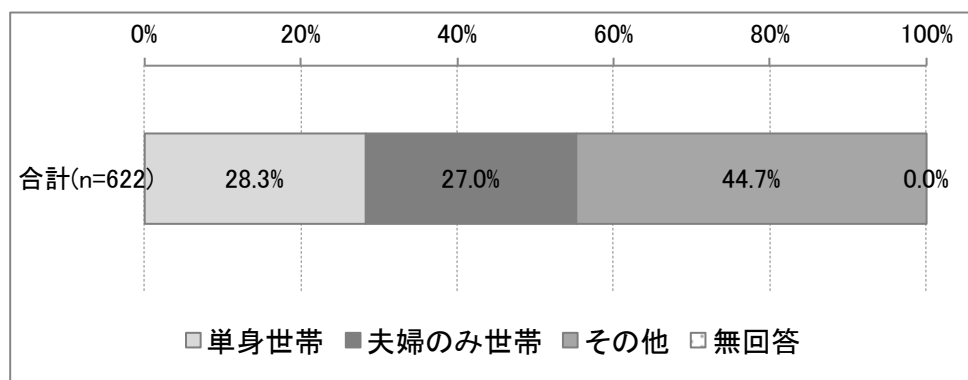
1 基本調査項目（A票）	[P. 1]
(1) 世帯類型	[P. 1]
(2) 家族等による介護の頻度	[P. 1]
(3) 主な介護者の本人との関係	[P. 2]
(4) 主な介護者の性別	[P. 2]
(5) 主な介護者の年齢	[P. 3]
(6) 主な介護者が行っている介護	[P. 4]
(7) 介護のための離職の有無	[P. 5]
(8) 保険外の支援・サービスの利用状況	[P. 6]
(9) 在宅生活の継続のために充実が必要な支援・サービス	[P. 7]
(10) 施設等検討の状況	[P. 7]
(11) 本人が抱えている傷病	[P. 8]
(12) 訪問診療の利用の有無	[P. 9]
(13) 介護保険サービスの利用の有無	[P. 9]
(14) 介護保険サービス未利用の理由	[P. 10]
2 主な介護者様用の調査項目（B票）	[P. 11]
(1) 主な介護者の勤務形態	[P. 11]
(2) 主な介護者の方の働き方の調整の状況	[P. 12]
(3) 就労の継続に向けて効果的であると考えられる勤め先からの支援	[P. 13]
(4) 主な介護者の就労継続の可否に係る意識	[P. 14]
(5) 今後の在宅生活の継続に向けて、主な介護者が不安に感じる介護	[P. 15]

1 基本調査項目（A票）

(1) 世帯類型

「その他」の割合が最も高く 44.7%となっている。次いで、「単身世帯（28.3%）」、「夫婦のみ世帯（27.0%）」となっている。

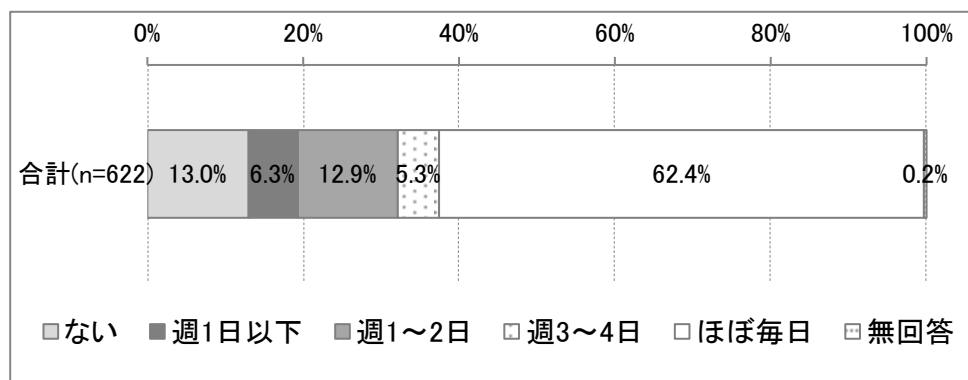
図表 1-1 世帯類型（単数回答）



(2) 家族等による介護の頻度

「ほぼ毎日」の割合が最も高く 62.4%となっている。次いで、「ない（13.0%）」、「週1～2日（12.9%）」となっている。

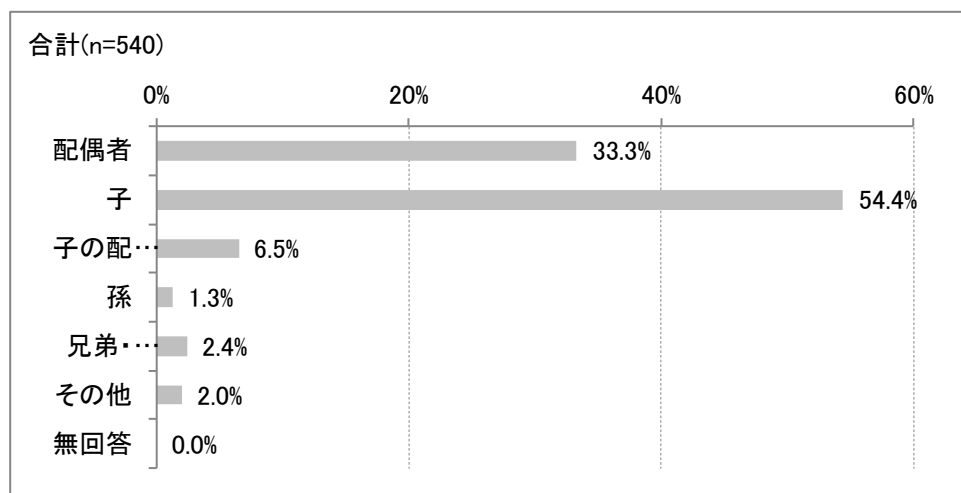
図表 1-2 家族等による介護の頻度（単数回答）



(3) 主な介護者の本人との関係

「子」の割合が最も高く 54.4%となっている。次いで、「配偶者（33.3%）」、「子の配偶者（6.5%）」となっている。

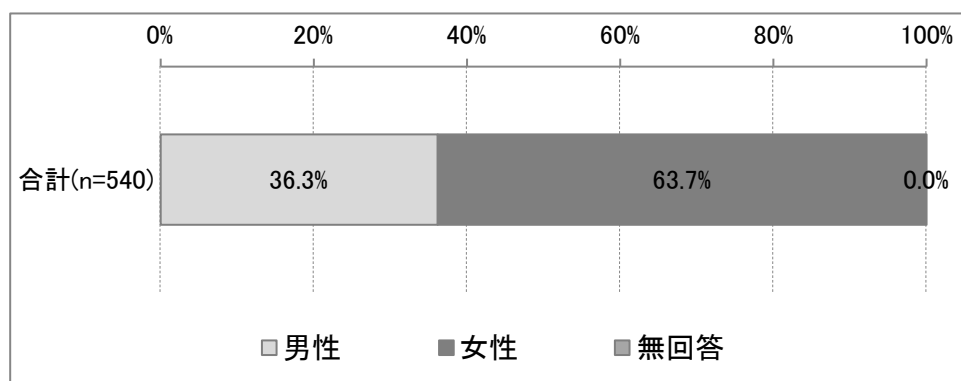
図表 1-3 ★主な介護者の本人との関係（単数回答）



(4) 主な介護者の性別

「女性」の割合が最も高く 63.7%となっている。次いで、「男性（36.3%）」となっている。

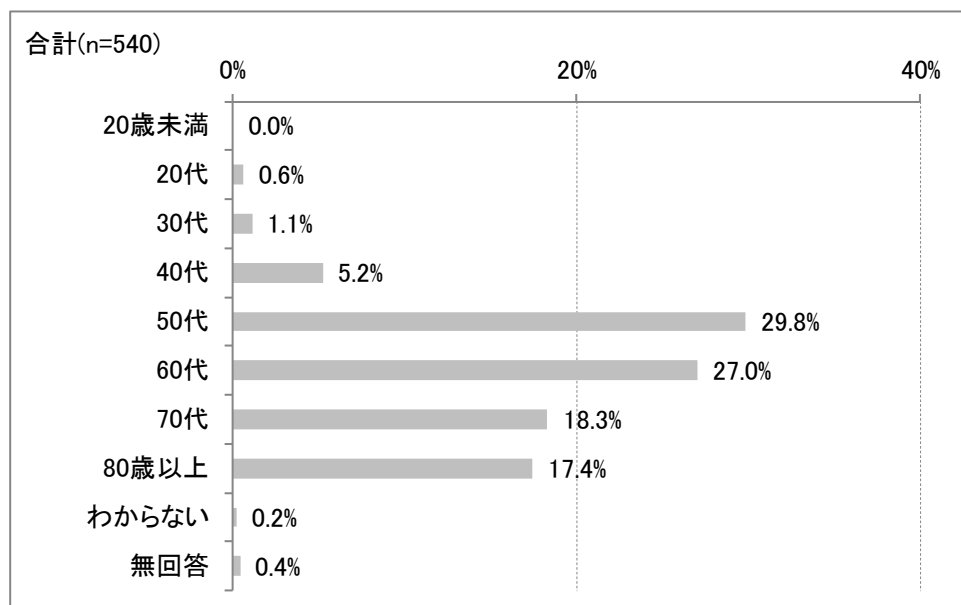
図表 1-4 ★主な介護者の性別（単数回答）



(5) 主な介護者の年齢

「50代」の割合が最も高く 29.8%となっている。次いで、「60代 (27.0%)」、「70代 (18.3%)」となっている。

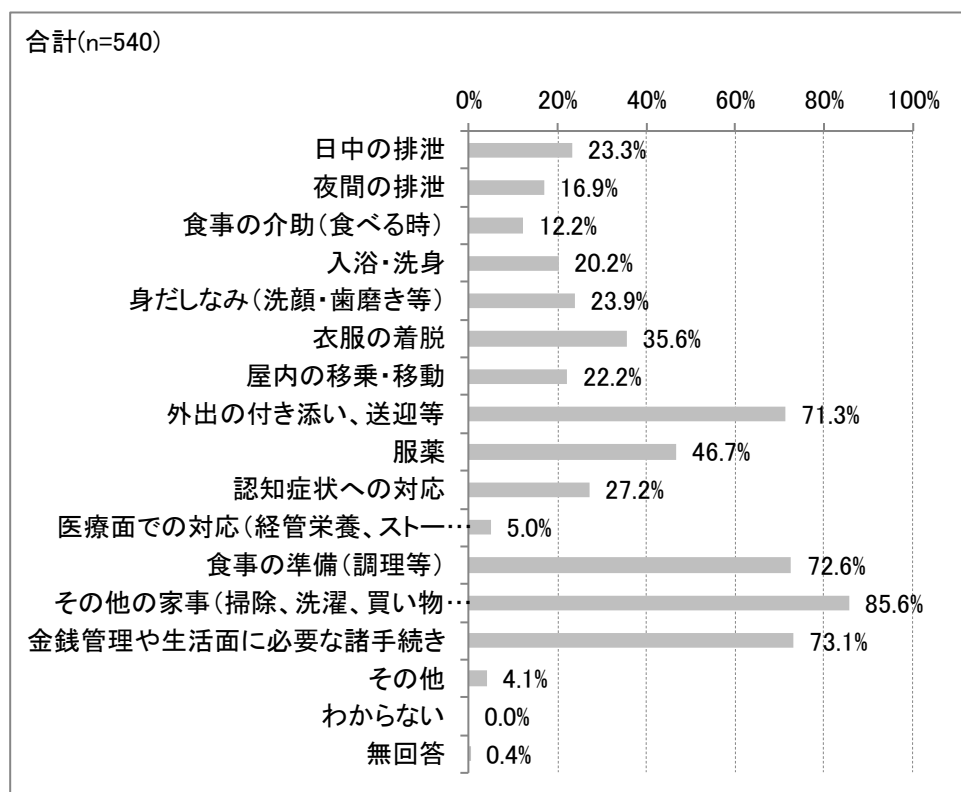
図表 1-5 主な介護者の年齢（単数回答）



(6) 主な介護者が行っている介護

「その他の家事（掃除、洗濯、買い物 等）」の割合が最も高く 85.6%となっている。次いで、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き（73.1%）」、「食事の準備（調理等）（72.6%）」となっている。

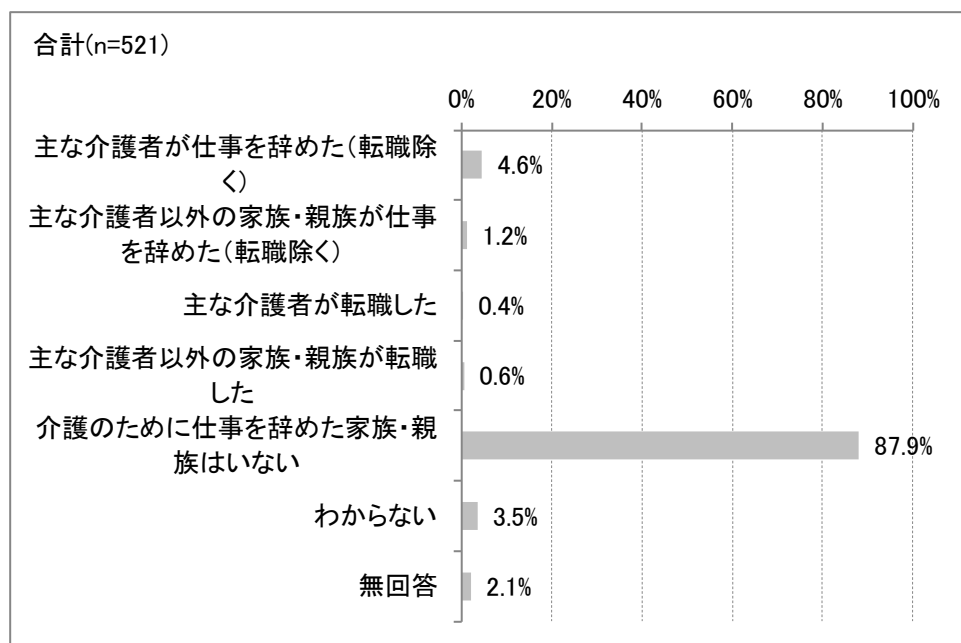
図表 1-6 ★主な介護者が行っている介護（複数回答）



(7) 介護のための離職の有無

「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」の割合が最も高く 87.9%となっている。次いで、「主な介護者が仕事を辞めた（転職除く）（4.6%）」、「わからない（3.5%）」となっている。

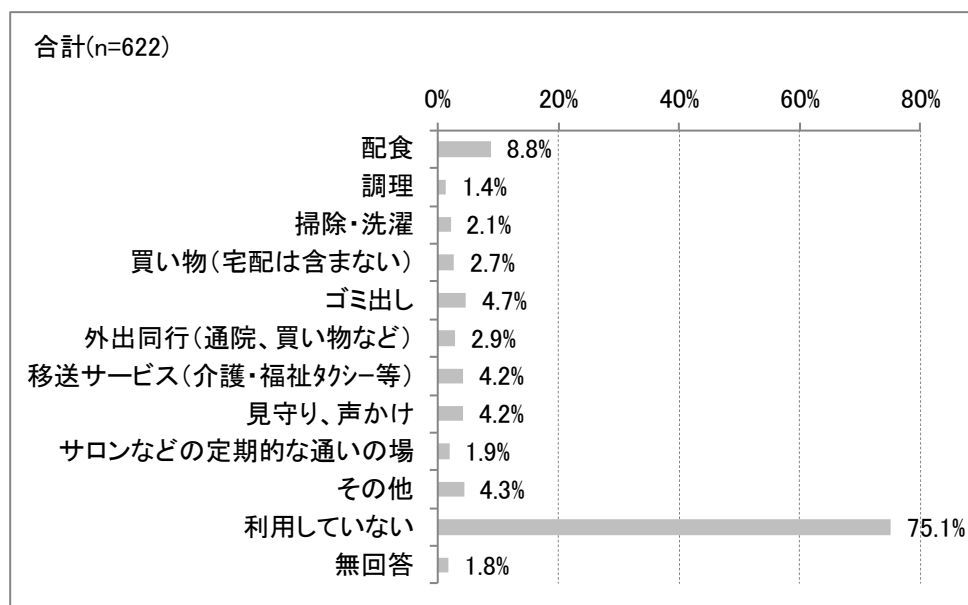
図表 1-7 介護のための離職の有無（複数回答）



(8) 保険外の支援・サービスの利用状況

「利用していない」の割合が最も高く 75.1%となっている。次いで、「配食（8.8%）」、「ゴミ出し（4.7%）」となっている。

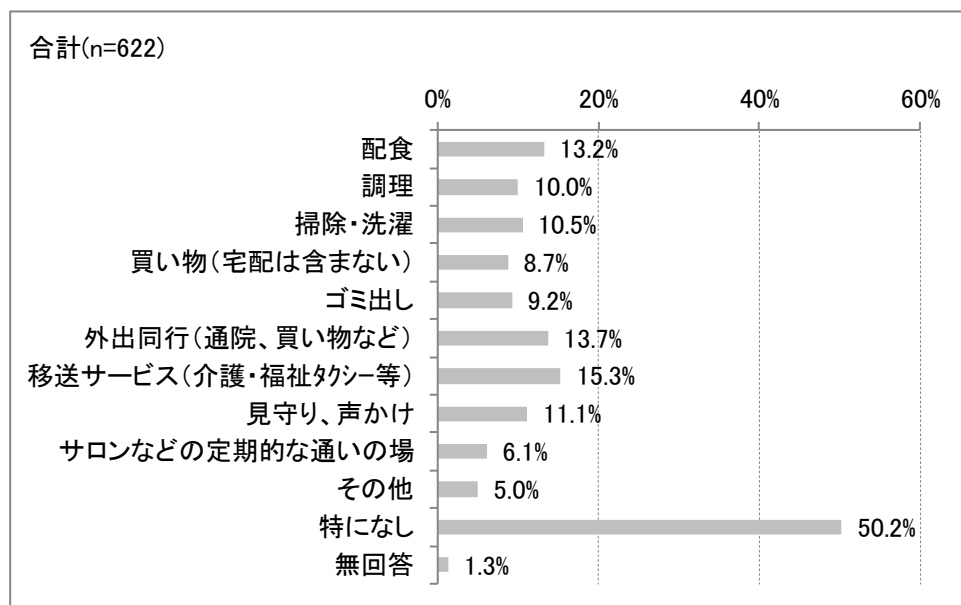
図表 1-8 ★保険外の支援・サービスの利用状況（複数回答）



(9) 在宅生活の継続のために充実が必要な支援・サービス

「特になし」の割合が最も高く 50.2%となっている。次いで、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）（15.3%）」、「外出同行（通院、買い物など）（13.7%）」となっている。

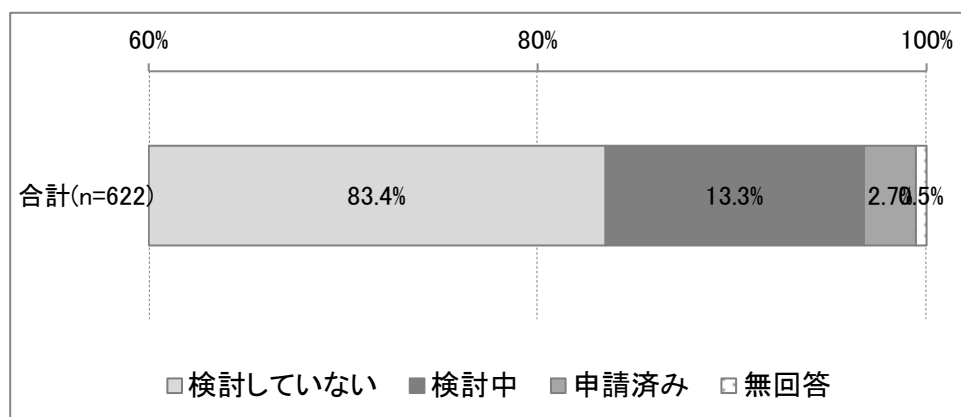
図表 1-9 ★在宅生活の継続のために充実が必要な支援・サービス（複数回答）



(10) 施設等検討の状況

「検討していない」の割合が最も高く 83.4%となっている。次いで、「検討中（13.3%）」、「申請済み（2.7%）」となっている。

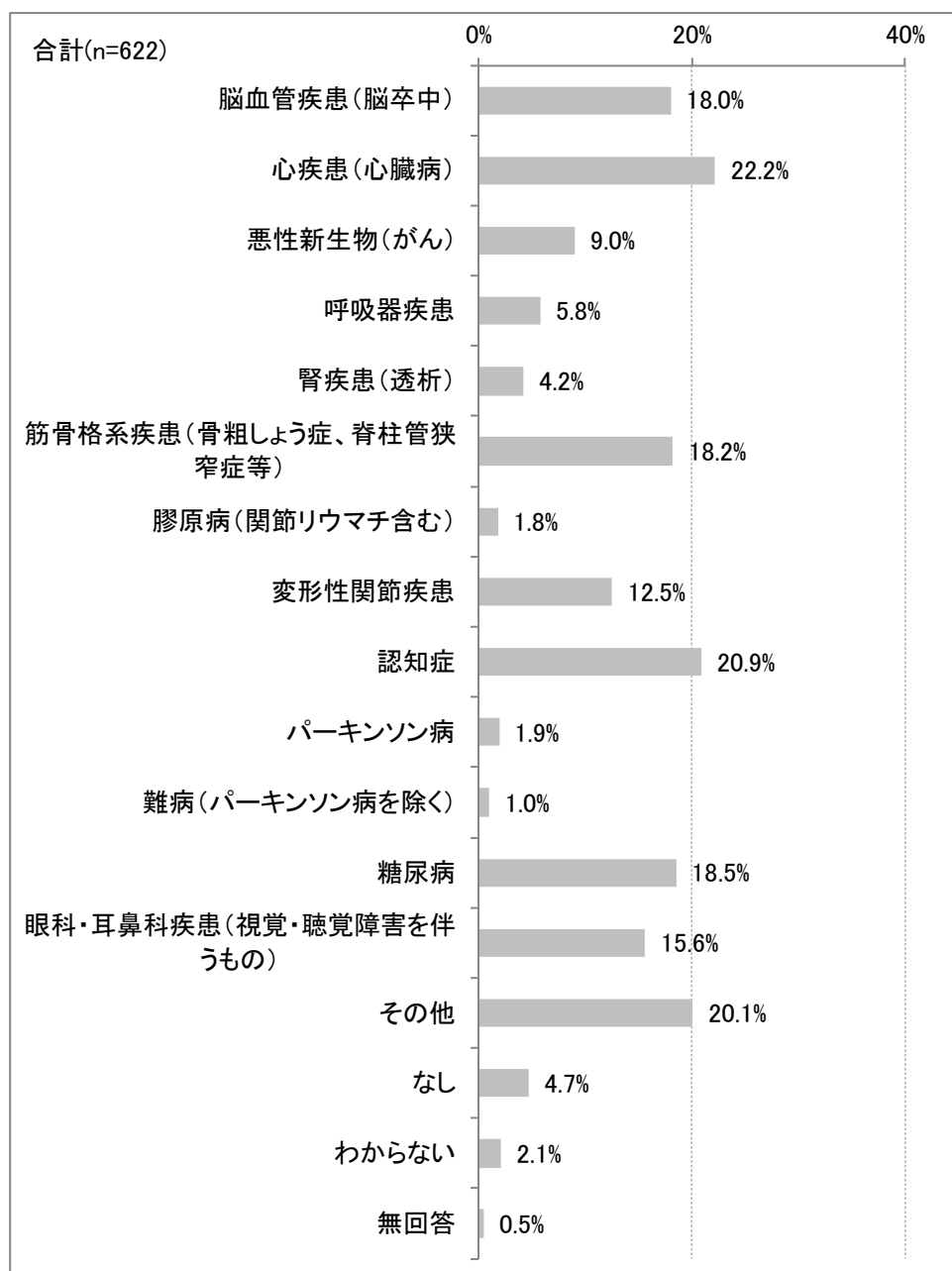
図表 1-10 施設等検討の状況（単数回答）



(11) 本人が抱えている傷病

「心疾患（心臓病）」の割合が最も高く 22.2%となっている。次いで、「認知症（20.9%）」、「その他（20.1%）」となっている。

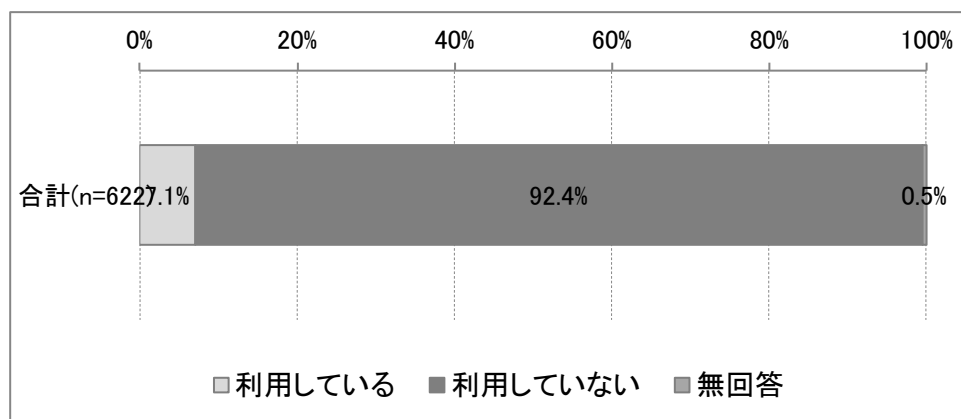
図表 1-11 ★本人が抱えている傷病（複数回答）



(12) 訪問診療の利用の有無

「利用していない」の割合が最も高く 92.4%となっている。次いで、「利用している (7.1%)」となっている。

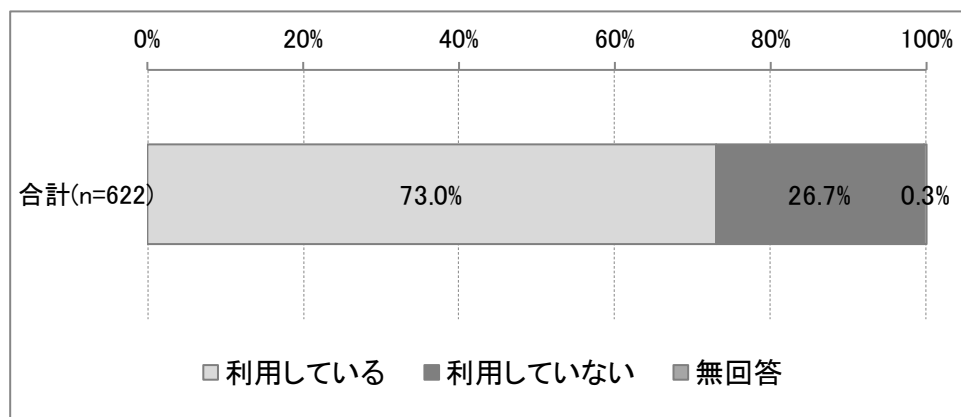
図表 1-12 ★訪問診療の利用の有無（単数回答）



(13) 介護保険サービスの利用の有無

「利用している」の割合が最も高く 73.0%となっている。次いで、「利用していない (26.7%)」となっている。

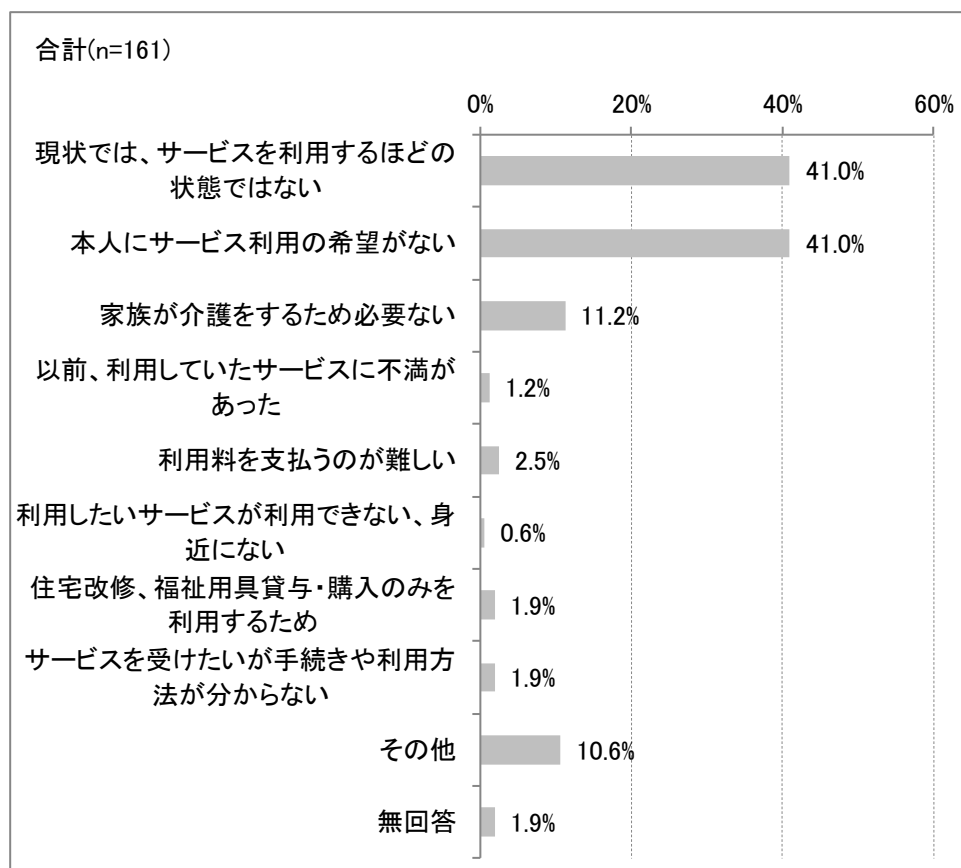
図表 1-13 ★介護保険サービスの利用の有無（単数回答）



(14) 介護保険サービス未利用の理由

「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」、「本人にサービス利用の希望がない」の割合が高く、それぞれ 41.0%となっている。次いで、「家族が介護をするため必要ない (11.2%)」、「その他 (10.6%)」となっている。

図表 1-14 ★介護保険サービスの未利用の理由（複数回答）

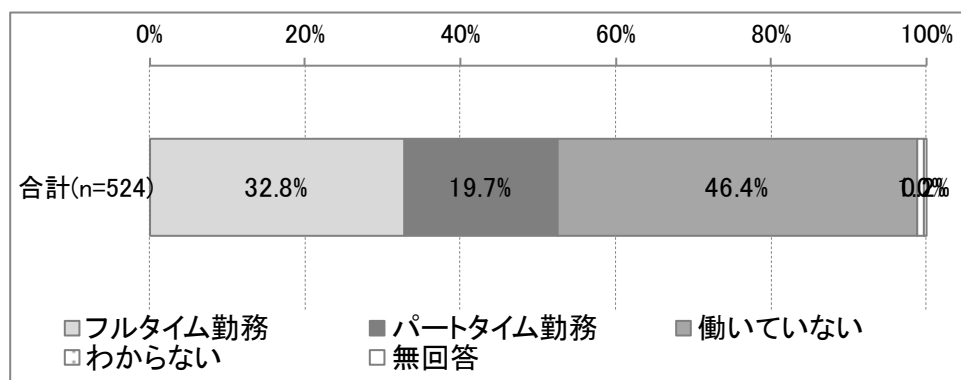


2 主な介護者様用の調査項目（B票）

(1) 主な介護者の勤務形態

「働いていない」の割合が最も高く 46.4%となっている。次いで、「フルタイム勤務（32.8%）」、「パートタイム勤務（19.7%）」となっている。

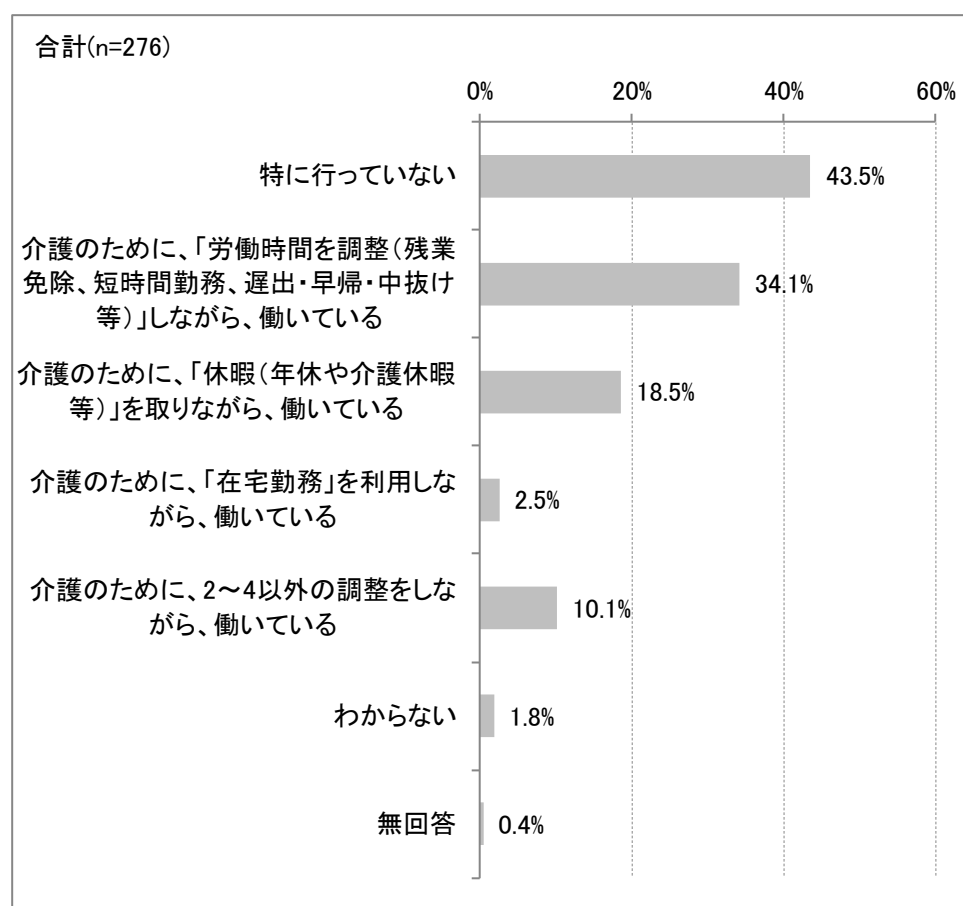
図表 2-1 主な介護者の勤務形態（単数回答）



(2) 主な介護者の方の働き方の調整の状況

「特に行っていない」の割合が最も高く 43.5%となっている。次いで、「介護のために、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）」しながら、働いている（34.1%）」、「介護のために、「休暇（年休や介護休暇等）」を取りながら、働いている（18.5%）」となっている。

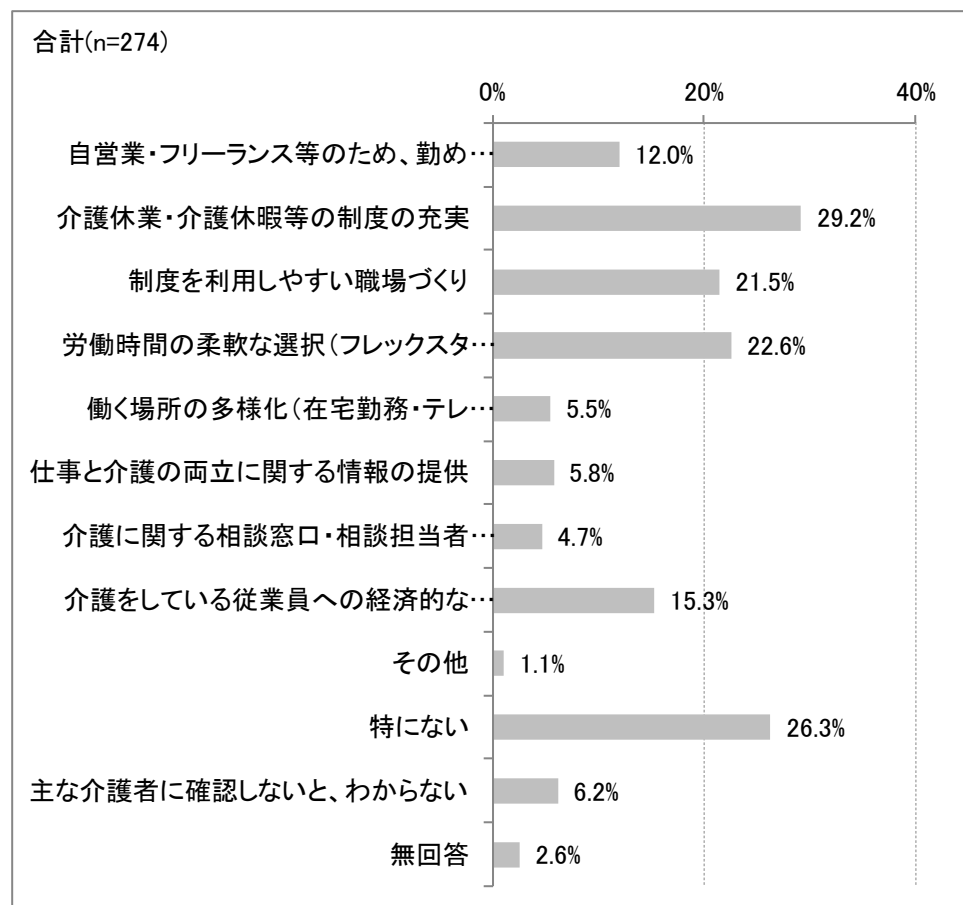
図表 2-2 主な介護者の働き方の調整状況（複数回答）



(3) 就労の継続に向けて効果的であると考えられる勤め先からの支援

「介護休業・介護休暇等の制度の充実」の割合が最も高く 29.2%となっている。次いで、「特にない (26.3%)」、「労働時間の柔軟な選択 (フレックスタイム制など) (22.6%)」となっている。

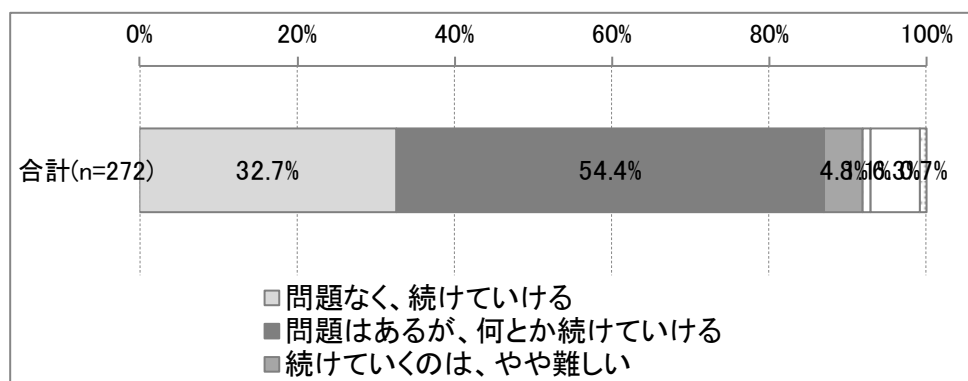
図表 2-3 ★就労の継続に向けて効果的であると考えられる勤め先からの支援（複数回答）



(4) 主な介護者の就労継続の可否に係る意識

「問題はあるが、何とか続けていける」の割合が最も高く 54.4%となっている。次いで、「問題なく、続けていける (32.7%)」、「わからない (6.3%)」となっている。

図表 2-4 主な介護者の就労継続の可否に係る意識（単数回答）



(5) 今後の在宅生活の継続に向けて、主な介護者が不安に感じる介護

「認知症状への対応」の割合が最も高く 26.9%となっている。次いで、「夜間の排泄 (17.1%)」、「入浴・洗身 (15.4%)」となっている。

図表 2-5 今後の在宅生活の継続に向けて、主な介護者が不安に感じる介護（複数回答）

